

機関番号：11301

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2010

課題番号：20520368

研究課題名（和文） アルメニア語新約聖書語彙の比較分析とシソーラスの作成

研究課題名（英文） A Comparative Analysis of the Armenian New Testament Vocabulary and
Compilation of the Armenian Thesaurus

研究代表者

千種 眞一（CHIGUSA SHINICHI）

東北大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号：30125611

研究成果の概要（和文）：本研究では古典アルメニア語新約聖書に生起する全語彙を対象にギリシア語語彙との意味領域に基づいた比較分析を行うことによって、アルメニア人に固有の精神世界を反映する言語宇宙の解明に寄与するシソーラスの作成に向け、アルメニア語語彙のデータベース化を実施した。比較分析の実例として、意味領域「罰と報い」に属する語彙や表現をその本文とともに抽出・検証してギリシア語語彙との意味的差異を明らかにし、さらにアルメニア人の聖書理解を容易にする談話戦略のいくつかの特徴を示した。

研究成果の概要（英文）：The present study intends to analyze the whole vocabulary which is attested in the Classical Armenian New Testament with the Greek lexicon based on semantic domains and to provide Armenian data base towards compilation of the Armenian thesaurus which can contribute to our understanding of the Armenian linguistic cosmos reflecting their spiritual world. An interesting case demonstrating a semantic difference between the Armenian lexical items and the Greek ones is represented by the words or expressions belonging to the semantic subdomain of 'punish and reward'. Furthermore, some properties of the discourse strategy peculiar to Classical Armenian, which would make the New Testament comprehensible to the Armenians, are provided with systematic consideration of the Greek data.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2009年度	800,000	240,000	1,040,000
2010年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	2,400,000	720,000	3,120,000

研究分野：言語学

科研費の分科・細目：言語学

キーワード：アルメニア語、ギリシア語、新約聖書、語彙、異訳、シソーラス、談話標識

1. 研究開始当初の背景

(1) アルメニア語聖書語彙を対象とする辞書編纂は 19 世紀前半に編纂されたアウエテ

イキャン他による『アルメニア語新辞典』(1836-1837)を学術的な嚆矢として、アジャリヤンの『アルメニア語語源辞典』(1926-1935)を経て、とくに福音書に関してはキュンツレによる『アルメニア語福音書、第二部 辞典』(1984)にいたるまで着実な発展を見せてきた。また、パランディアンによる上記『新辞典』への逆引き索引(1991)やミナシヤンによるマルコ伝、ヨハネ伝、マタイ伝、ルカ伝の福音書コンコードダンス(1984-1991)、そしてユングマンとヴァイテンベルクによる『古典アルメニア語逆引き分析辞典』(1993)なども逐次刊行されて、高度に学術的で信頼のおける古典アルメニア語辞書を編纂する基礎が整えられてきた。

しかし、伝統的な印欧語学の枠組みの中でアルメニア語語彙の通時的・語源的探求がきわめて活発に行われてきたのに対し、将来多くのアルメニア研究に役立つと期待される汎用的な辞書の編纂を見据えた語彙体系の共時的な意味分析は等閑視されてきたきらいがある。

こうした状況にかんがみて研究代表者は、古典アルメニア語の重要な資料である新約聖書翻訳を対象とするアルファベット順見出し語配列型の辞典を実際に編纂する過程の中で、アルメニア語新約聖書の語彙体系の解明とともに、その最終的な成果をアルメニア語シソーラスの作成という形で実現する必要性を認めるにいたった。

(2) これまでのところ意味領域に基づく類語検索型シソーラスは作られていないし、またその対象を新約聖書語彙に限って新約聖書アルメニア語という小言語宇宙の実相を解明しようという研究が組織的に行われたこともなかった。

したがって、新約聖書に生起する大量の語彙データをギリシア語語彙と比較分析し、意味領域ごとにこれを整理・組織化することにより製作される類語検索型シソーラスは、通常タイプのアルファベット順アルメニア語辞典と相互参照的に利用されるならば、アルメニア語研究者や辞典編纂者だけでなく、聖書研究者や新約聖書翻訳者にとっても貴重な手だてとなることが期待された。

2. 研究の目的

(1) 本研究の目的は、古典アルメニア文語による新約聖書の翻訳テキストに現れる語彙とその翻訳底本であるギリシア語新約聖書

の語彙とを共通の意味領域に基づき比較分析することによって、アルメニア語新約聖書における共時的な語彙体系を明らかにすることである。

(2) また、類語検索機能を備えた新約聖書アルメニア語シソーラスの作成のためにアルメニア語語彙のデータベースを準備して、キリスト教が公式に受容される以前から古典期アルメニア人の精神世界の重要な部分を反映していたと想像されるアルメニア的言語宇宙の解明に貢献することを目的とする。

(3) さらに、辞書論的な見地から古典期アルメニア人の言語宇宙を明らかにする作業を通して、アルメニア人翻訳者が一握りのアルメニア固有語を圧倒する膨大な借用語に満ちた語彙体系に依存せざるを得ない状況の中で、ギリシア語原典とどのように対峙して、聖書翻訳という普遍的な宗教的営為をいかに実現しえたかという問題の解明にも寄与することを目的としている。

3. 研究の方法

(1) ルーおよびナイダ著『意味領域に基づいた新約聖書ギリシア語・英語辞典』(1988-1989)において実践された意味分析および意味分類の基本的諸原理を方法上のモデルとして用い、四福音書をはじめとする新約聖書ギリシア語語彙全体の分布と異同についてアルメニア語語彙との比較分析を行う。

①アルメニア語「ゾフラブ」聖書テキストの語彙調査を基本として、四福音書についてはキュンツレ(1984)、古典期アルメニア語全般についてはパランディアン(1991)を用いて、全語彙を収集した。

②新約聖書ギリシア語本文とアルメニア語テキストを対照し、単語・連語・慣用句・文などのレベルでの対応関係を同定する。とくに異訳および逸脱した対応、すなわち付加や省略、逐語的でない自由訳が見られる場合、アルメニア語語彙に固有の意味特徴が認められるか、あるいはペルシア語やパルティア語などのイラン語またはシリア語などの外来因子が潜在している可能性があるか否かに留意して作業を進める。

③アルメニア語語彙とギリシア語語彙との間に意味領域に基づく対応関係を同定する。

意味領域は前掲の ルーおよびナイダ による約 90 領域およびそれぞれにおいて細分される下位領域を対象基準として用いる。

たとえば領域 1「地理的対象と特徴」では下位領域は(ア)宇宙、創造；(イ)地球の上の領域；(ウ)地球表面の下の領域；(エ)天体；(オ)大気中の物体(雲、霧、蒸気、煙、虹)；(カ)地球の表面；(キ)高い地形(山、丘など)；(ク)くぼみと穴；(ケ)海と対比される陸；(コ)水域(海、湖、川、湾など)；(サ)社会・政治的領域(国、町、村など)；(シ)政体・行政的領域；(ス)人の住んでいない地域；(セ)人の住んでいる中心；(ソ)牧草地・耕作地；(タ)往来(道路、街路、小路など)。

領域 24「感覚的な事象と状態」では下位領域(ア)視覚；(イ)聴覚；(ウ)嗅覚；(エ)触覚；(オ)苦痛；(カ)一般的な感覚的知覚。

領域 53「宗教的活動」では下位領域は(ア)宗教的实践；(イ)奉献、供犠；(ウ)浄化、清め；(エ)穢れ；(オ)洗礼；(カ)奉納、聖別；(キ)崇拜、崇敬；(ク)断食；(ケ)役職と機能；(コ)魔術；(サ)悪魔払い；(シ)神聖冒瀆、神殿荒らし。

領域 91「談話標識」では下位領域は(ア)移行の標識；(イ)強調の標識；(ウ)注意の標識；(エ)直接呼びかけの標識；(オ)確認節および説明節の標識、などである。

これらのすべてについてギリシア語とアルメニア語の語彙項目を実際に生起する本文とともに抽出し、意味分析を行う。

(2) 本研究ではとくに「罰と報い」という意味領域に関してそれぞれ「罰」の下位領域と「報い、返報」の下位領域、さらにこれらと関連する「報復、復讐」という概念について、ほぼすべての生起箇所を検証することによって、ギリシア語との意味的対応関係あるいは差異を明らかにする。

(3) また、アルメニア人が新約聖書の内容を正確に理解しようとする過程の中で重要な役割を果たす談話標識は、ギリシア語との逐語的対応を同定するのが困難な領域であるので、実際にギリシア語の談話標識の機能がどのようにアルメニア語翻訳で実現されているかを、話題の転換・移行、強調、卓立性、結束性などの談話機能的概念を用いて比較検討する。

4. 研究成果

(1) ルーおよびナイダの掲げる意味領域および下位領域に属する全語彙のデータベース化をアルメニア語新約聖書を対象に実施して、古典アルメニア語シソーラスを作成するという最終目標の実現を可能にする基礎データを確立した。

対象とされた意味領域はおもに具体的な事物に関する意味領域(たとえば地理的対象、自然物質、植物、動物、食物、人体部分、家族・親族名称など)、また出来事・振る舞い、認知等に関する意味領域(たとえば種々の身体運動、心・精神、感情、知覚、農耕、牧畜、建築、衣料、葬祭、軍事、法律、動産・不動産所有など)および抽象的な意味領域(たとえば空間、時間、数、量、全体・部分、比較、否定、真偽、価値、権力、地位など)、文法的なメタ意味領域としておもに前置詞による格関係(たとえば動作主、被動作主、使役者、被使役者、道具、起点、終点、経験者、受益者など)、談話標識(たとえば談話内容の転換・移行、強調、卓立性、結束性、直接の呼びかけなど)、さらに談話指示関連領域(たとえば話し手、聞き手、相互指示、関係指示、人称直示など)などである。

これらは前掲のアルメニア内外で刊行された従来の語彙索引やコンコーダンスでは得られなかった成果であり、今後のアルメニア語学だけでなくアルメニア語新約聖書学にも大きく貢献する基礎データであると考えられる。

(2) 談話標識に関しては、古典アルメニア語においても原則として談話機能を持つ小辞をできるだけ活用することでギリシア語原文に忠実な翻訳が心がけられてはいるが、アルメニア語はギリシア語の多種多様な小辞に正確に対応できる小辞には質量ともに恵まれていないという実情は否定しがたい。

たとえばギリシア語で多用される小辞群に対する対応に見られるように、アルメニア人読者あるいは聴者に不自然な印象を与えかねない逐語的翻訳をあえてしないことによって、談話の流れを阻害することなく、むしろ結束性をより高める効果を優先させることで、読者あるいは聴者の本文理解を容易にしている事例があることを示した。

こうした広義の異訳現象は、アルメニア語新約聖書翻訳者に固有の本文解釈を直接・間接に反映する証左として、従来の研究ではほとんど顧みられることのなかったアルメニア語的談話構造あるいは談話戦略の解明に寄与するものと捉えられ、新約聖書解釈学の

みならず、一般翻訳学的研究にとっても貴重なデータを提示しうるものとする。

(3) アルメニア語・ギリシア語新約聖書語彙の比較分析の実例として意味領域「罰と報い」および関連領域「報復、復讐」に属する語彙や表現について、それらが現れる本文を前後の文脈とともに検証することによって、両言語語彙の意味的差異を明らかにした。

さらに、アルメニア語では原則としてギリシア語語彙に一対一対応で訳語が選定されているが、語彙によってはアルメニア語一語がギリシア語の複数の語彙にまたがって対応している例やその逆の例が見出された。

これはアルメニア語とギリシア語の語彙体系がそれぞれ独立した構造を有していることに起因するものと判断される。また、アルメニア語翻訳者独自の宗教観・倫理観に基づくと考えられるテキスト解釈に付与された表現上の創意工夫を反映する興味深い異訳現象も指摘した。

これらは従来の文献学的研究では詳細な検討がなされてこなかった重要な事実であり、今後、古典期アルメニア人の言語と精神とを探究するうえで不可欠の情報を提供するものであることは間違いない。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

- ① 千種眞一、古典アルメニア語新約聖書における談話標識について、東北大学言語学論集、査読無、18巻、2009、1-19
- ② 千種眞一、アルメニア語新約聖書における罰と報い、東北大学言語学論集、査読無、19巻、2010、1-16

[学会発表] (計1件)

千種眞一、印欧語における人称標示をめぐって—類型学的観点から—、大阪言語研究会、2009年12月19日、大阪

6. 研究組織

(1) 研究代表者

千種 眞一 (CHIGUSA SHINICHI)
東北大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号：30125611